

令和3年度 日本大学櫻丘高等学校 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

日本大学の教育理念である「自主創造」の精神を基に、「自ら学び」「自ら考え」「自ら道を開く」能力を持つ生徒の育成を目標とする。そのためには「生徒ファースト」の視点に立ち、個々の教員が一人ひとりの生徒と向き合いながら、様々な情報を共有し、全教職員が協力して生徒指導に当たる必要がある。これにより個々の生徒が学習活動や課外活動に生き生きと取り組み、知識ばかりではない全人格的な陶冶を果たすような教育を施してゆく。本校は70有余年の歴史を持つが、先人たちが培ってきた良き伝統の上に、現代社会におけるニーズに応える新しい教育を取り込む「不易流行」の精神を持って、魅力のある、選ばれる学校を目指していく。

〔本校の特長及び課題〕

本校では、総合進学（G）クラス、特別進学（S）クラスの2コースを設定し、日本大学を中心に個々の生徒の志望に対応した教育の充実と進学指導体制の確立を目指しており、令和3年度には国公立大3名、いわゆる早慶上理5名、GMARCH32名の合格者を出すことができたが、昨年度よりこれらの難関大学合計で-24名（昨年度64名）であった。特進クラス的人员が、発足2年目で中学校への周知が行き届かなかったこともあって募集人員を下回る20名と少なく、他大学の受験者が少なかったことも影響している。主として日本大学への内部推薦を目指す総合進学（G）クラスからは、日本大学へ371名進学を果たすことができ、卒業生に占める日本大学進学者の割合は73.8%であった。それぞれのコースに応じたきめ細やかなホームルーム指導や生活指導で、生徒の自主性を育み、社会性も育成していることが特長である。

また、令和元年度より現代の社会の変化に対して身につけるべき学力の3要素、すなわち「基礎的な知識・技能」これらを活用するための「思考力・判断力・表現力」そして「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を養うために「櫻イノベーション」として、より一層充実した教育活動を展開している。令和3年度にはその具体的な施策を、①グローバル教育×ダイバーシティ、②体験型高大連携教育×サイエンスリテラシー、③アクティブラーニング×ICT教育、④クリティカルシンキング×プレゼンテーションリテラシーとしてバージョンアップさせ、さらに⑤ループリック評価×PDCAを加えて、「櫻イノベーション」セカンドステージと位置付け、より充実した教育活動を行っている。

令和3年度の実績結果

〔概況〕

令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止策としての学校運営を、感染者数の増減と共に臨機応変に行ってきた一年間であった。その中で今年度は、「生徒の学びを止めない」とともに、学校行事やクラブ活動などの生徒の体性や協働性を養う教育活動の継続を図る様々な工夫を凝らしてきた。授業については、感染拡大状況の中では時差通学・短縮授業、学年ごと分散登校と、Zoomを用いたオンラインライブ授業を並行して実施し、生徒は登校して対面で授業を受けるとともに、各家庭において制服に着替えてHRや授業に参加する形態をとり、休校や家庭学習とせずに継続した学習を可能とした。また基礎学力到達度テスト前の感染者数増の期間においては、対面授業とその授業をZoomで配信して家庭でも受講できる、本格的なハイブリッド授業を取り入れ、昨年度よりもバージョンアップした遠隔授業を展開することができた。その結果各教科・科目のシラバスをほぼ全うすることができ、3年生9月の基礎学力到達度テストの成績にも反映させることができた。

学校行事については、昨年度2年次に修学旅行やその代替ができなかった3年生に対して、7月の感染拡大前に校外教育を実施、2年生の修学旅行は2月に延期するとともに場所を都内及び近郊に替えて実施、1年生の校外教育については10月に校内において班別活動によるトレジャーロワイヤルを実施するなど、形や日程を変えて各学年の校外教育を中止することなく全うできた。体育大会についても競技種目や実施時間帯を工夫して、生徒が主体的に運営しながらクラスごとに協力できる体制を整えて実施した。文化祭については日程を変えずに生徒自身で作成するオンライン文化祭として実施した。各クラスや文化部活動の動画など、かなりクオリティの高い作品が完成し、

また、クイズ大会やビンゴゲームなども体育館と教室をつないで生徒自身の運営により実施し、盛会裏に終えることができた。これらの活動は通常の授業では体験できない、主体性や協働性の育成に大いに資するものであった。

またグローバル教育×ダイバーシティの一環として毎年行ってきた英国語学研修については、海外渡航が禁止されているため、イギリス現地校と Zoom を用いてつながる English Challenge Program を行い、現地の高校生と本校生徒が英語でコミュニケーションを図る機会を設けた。また今年度から開始した、本校へ通いながらアメリカの高等学校卒業資格を得る U.S. Dual Diploma Program を発足させ、2名の生徒が本校教員で組織する Global Academic Center のサポートを受けながら挑戦している。

体験型高大連携教育×サイエンスリテラシーにおいては、今年度は三者面談時に日本大学の各学部からお越しいただいて、保護者及び生徒の質問を受け付ける形で説明会を実現することができた。また夏休み中には日本大学理系の学部・学科の先生をお招きして「理工系出張講義」を企画し、理系大学での実験や講義を体験できる連携教育、2学期には1・2年生全員を対象として23の学問系統から2つ選んで受講できる出張講義を行った。これらの行事は日本大学のスケールメリットを生かした日本大学付属校ならではの企画で、コロナ禍においても感染症対策を完全に講じながら実施することで、生徒のキャリア観育成に大いに役立つものであった。

また令和2年度に完成した SAKURA ルーブリックを本格的に導入し、日本大学の教育理念「自主創造」を体現するPDCAプログラムとして、各学年とも半年ごとに本校での教育の成果を生徒自ら評価する形で行ってきた。そして前回の評価と比較して「リフレクションシート」に回答し、半年後に達成すべき知識以外の能力の目標を立てて実践を繰り返し、3年間かけて本校教育での成果を自ら完成させてゆく指標とした。これによってこれまでただ漫然と楽しむだけであった行事への取組に意義を持たせ、またアクティブラーニングやクリティカルシンキングの授業に対して、達成すべき目標を可視化させる効果をもたらすことができた。

次年度に向けての課題としてはこれまでの様々な教育施策の成果として、生徒にいかにしてプレゼンテーションリテラシーを身につけさせるかということが挙げられる。インプットのみならずアウトプットの力を育成することで、表現力や対話する力をつけさせることを実践させたい。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」、 「高大接続改革」への 対応	現行カリキュラムの問題点のあぶり出しと反省を行い、本校の学校教育目標を具現化できるカリキュラムを作成できた。SクラスとGクラスとのバランスや思考力や探究力を育成できる内容とし、3年次に選択科目の幅を持たせた。教科からの3年間の組立とそれに伴う単位数を委員会で検討した。Sクラスの在り方については、国公立対応型ではなく難関私立対応型にする方向で決まった。国公立はオプションとして対応することが決定した。当初のスケジューリングより遅れたが、令和3年11月に本部への内申、12月には東京への申請が完了した。	A
グローバル教育の更 なる推進	新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できない英国語学研修、NZ留学等の代替プログラム English Challenge Program を8月に実施した。対面での語学研修やオンラインでホームステイ、交流プログラムを実施し、国内にしながらグローバルを体感できるものになった。1・2年生の希望者28名が参加した。また、U.S. Dual Diploma Program を導入し、本校で在籍しながらアメリカの高校卒業資格を得て、アメリカの大学へ100%進学できるシステムが構築された。現在2名の生徒が参加し、順調に単位を習得している。	A
教員研修	教務部研修部門が中心となり教員研修の企画・立案及び運営を行った。今年度から新たに研修報告書を作成し、共用フォルダーに提出してもらうこととした。教科内での報告や共有を徹底した。また、7月に実施した総合的な探究の時間に関する研修会では、グループワークを取り入れ、振り返りや情報の共有を行った。	A

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に改定した本校のいじめ防止対策基本方針に従って、全教員が同じ意識で事態に対処する意識を持ち、現場での対応に当たった。 個人面談及び「学校生活アンケート」による生徒の理解・掌握を進め、ささいなサインを見逃さないこと、相談しやすい環境作りを実践した。特に「学校生活アンケート」は実施回数を1回増やし、さらに生徒の変化に気付けるよう工夫をした。 外部業者によるネットパトロールに加え、学校リスクマネジメント推進機構、ILC紛争解決センターや本校スクールカウンセラーとの連携し、専門家と相談しながら問題の早期対応・早期解決だけでなく、生徒にとってより良い対処方法・解決方法を目指していく体制を整え、活用した。 日本大学の「いじめ防止、早期発見のためのリーフレット」を配布し、いじめの概念やいじめは絶対に許されないことであるという点を全校生徒、保護者、教職員に周知した。 	B
登下校及び校内における社会生活上のマナーに対する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 本校正門前、下高井戸方面・桜上水方面に登校指導担当の教員が立ち、挨拶の励行や服装指導、交通マナーの指導を行った。10月下旬に分散、時差登校から通常登校に戻った際に苦情が増えたため、12月より駅構内の担当者を増員して対応した。 5月に自転車通学登録を行う際に、自転車事故防止のためのリーフレットを配布して指導交通ルールを遵守する指導を行った。 校内では学期ごとに挨拶の励行やマナーの厳守、思いやりのある言動をとる等の生活目標を掲げ、社会生活において必要不可欠な規範意識を育て、個人のモラル向上に努めた。 	B
SNSの利用に関わる問題についての指導	<ul style="list-style-type: none"> 本校生徒に関するWeb上の問題について「ネットパトロール」を依頼している専門機関講師による「ネットリテラシー講座」を実施し、近年の高校生が直面しているインターネット上のトラブルや被害について詳細な説明及び注意喚起を行った。今年度は4月に1年生を対象に、6月に2年生を対象に実施した。4月は新型コロナウイルス感染症予防のため、第1会議室からのZoom配信を各HR教室で視聴し、6月は体育館にて集会形式で実施した。 7月に成城警察による講話（薬物依存及びその他SNS関連事案JKビジネス等）を開催し、トラブルに巻き込まれないための知識を得た。 	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
芸術鑑賞会の充実	<p>昨年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止となったが、今年度は帝国劇場でミュージカル「マイ・フェア・レディ」を鑑賞することができた。次年度は府中の森芸術劇場にて古典芸能の鑑賞を業者に依頼した。</p> <p>今までの芸術鑑賞会は、1日で全校生徒を対象に実施してきたが、本校規模を収容できる会場が少ないこと及び新型コロナウイルス感染拡大により多くの生徒を一度に集合させることは難しい状況があるなどから、実施方法を検討した結果、再来年度以降は1・2年生と3年生の芸術鑑賞会を分けて実施しすることにした。</p>	B

	実施内容については、次年度以降に検討を重ねることとした。	
生徒会行事の実施時期等の検討	<p>生徒会行事の実施時期等の検討を行った。</p> <p>文化祭は3年生が9月に基礎学力到達度テストを受けること及び生徒募集の観点からも1学期に実施することがベストとの結論を得た。</p> <p>体育大会は次年度の実施時期を陸上競技場の都合により9月末とした。体育大会は陸上競技場が大学の施設であり、その都合により実施時期が動くことがあること及び雨天時の延期等学校行事への影響もあるので、外部施設の利用も含めて次年度以降に検討を重ねることとした。</p>	B

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 7月の面談時に進学相談会を開催し、オンラインを含め15学部を招いて実施できた。 5月、7月、9月に3年生を対象に進路説明会を実施し、日本大学附属推薦制度について説明を行った。また、進路説明会の動画を本校ホームページにもアップし、保護者にも視聴を促した。 1年生に企画していた学部訪問は、新型コロナウイルスにより日程調整が困難となり、実施を見送った。 	B
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 10月に、1、2年生を対象に、出張講義を実施した。日本大学より10学部15学科、他大学より8大学の講師を招き、23種類の講義を実施した。 2年生11月の進路説明会では、ベネッセ担当者を招いた講演、及び卒業生による進路講演を実施した。3年生5月には、卒業生による進路講演を文理コース別に実施した。 	A
高大連携教育	<ul style="list-style-type: none"> 前期後期合わせて、延べ47名の生徒が文理学部、法学部、経済学部の講義に参加した。 2年生7月の「理工系学部の出張授業講義」を実施し、81名の生徒が参加した。 9月に実施を予定していた文理学部体験授業は、新型コロナウイルスの影響により中止となった。 	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
保健衛生（健康管理）の充実	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の準備を十分に行い、スムーズな運営をすることができた。全員の受診が完了した。それをもとに学校医による健康相談を実施し、健康管理に努めた。 教職員・生徒に対し適切な熱中症予防の注意喚起を行った。 新型コロナウイルス感染予防として校内の次亜塩素酸ナトリウム溶液・アルコール・マイペットスプレーを使用して共用スペース・教室等の消毒の徹底をした。また classi アンケートによる生徒及び教職員の健康管理を行い、体調不良生徒の早期発見や症状の把握に役立った。 新型コロナウイルスにおける体調不良生徒の報告や生徒及び生徒家族のPCR検査報告の流れを周知し各部署との連絡を行った。それにより迅速かつ適切な対応がとれており、感染の拡大の予防につながっている。 	A

	<p>新型コロナウイルス感染疑いに係る出席停止生徒報告書を改訂しながら状況に応じた書類を作成して運用した。また Google ドライブを活用し、状況報告と連絡を効率的にリアルタイムで情報共有を図った。</p> <p>出席停止の生徒に対し、規定の出席停止の日数と症状の経過について学校と家庭で相互に連絡をし、生徒の登校復帰までの手続きを適切な手順で行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校感染症などの情報を教職員・生徒に周知徹底し、予防が図られた。校内の新型コロナウイルス感染予防の対策を徹底し、また教職員のインフルエンザ予防ワクチン接種予防効果を高めた。 ・インフルエンザ感染については、罹患した場合の提出書類としてインフルエンザ罹患証明書の手続きの周知と確認を行った。現在まで罹患者は一人も報告されていない。 ・また随時学年、クラス担任と情報共有や連携を取りながら、保健衛生の視点から生徒の安全と教育現場の充実を図っている。 	
生徒相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年全員が生徒相談資料調査を実施した。分析結果を各担任と学年教員で共有していきながら、学級経営・生徒指導に役立たせた。 ・生徒相談室の環境整備をした。 ・特別支援ミーティングを実施し、スクールカウンセラーも交えて支援の必要と思われる生徒への情報交換を通して、適切な生徒対応を話し合った。 	B

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
オンラインデータベース実用化の準備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書管理の不備が訂正されたので、業者と打ち合わせて導入計画を実施した。 ・業者との打合せを行い、導入計画を作成した。 ・令和3年度6月に運用を開始。 	A
I C Tを活用した委員会活動の実施	classi 上で図書委員のグループを作成し、選書を行った。ただし、新型コロナウイルス感染対策のため、図書室に生徒を呼び込む活動自体が制限をされることになり、活発な活動を促すことは自粛した。	B

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
動画コンテンツによる広報活動の拡充	今年度は、本校独自作成の動画を1本、インターエデュのサービス内で2本の動画を作成した。なお、本校独自の動画は生徒の普段の生活をテーマとしたもので、学校説明会等で放映した。新型コロナウイルスの影響で、生徒の普段の様子をなかなか見てもらえない中、大きな効果があったと実感している。また、インターエデュの動画については「English Challenge Program」「櫻高祭」の2つの行事を取り上げた。こちらも本校の行事の様子がよく伝わる内容になっており、視聴回数も良好である。次年度も引き続き、定期的な動画コンテンツの作成を計画している。	B
S N Sによる広報活動の強化	今年度は、Instagram・Twitterの2つのSNS媒体による定期的な更新を実施した。Instagramは視覚的に効果のあるような投稿を、TwitterはHPへの誘導等を目的とした投稿を主に行った。掲載内容を吟味し、今後も引き続き定期的な更新を行っていく。 また、入試関連イベントの参加者アンケートなどでもSNSの効果を図れるよう	B

	な質問項目を設定し、受験生にとって身近な存在である SNS をより有効に活用していきたい。	
--	---	--

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
ループリック検討委員会（継続）	SAKURA ループリックとして本格的に導入し、運営を開始することができた。委員会の決定として半年に1回の頻度で回答させて、必ず振り返りをさせることとした。具体的には2、3年生には前年度3月、1年生には5月にClassiのアンケート機能を利用して生徒へループリックを配信して回答させ、全体の回答状況と各人の回答を比較させた。10月には全学年とも一斉にループリックを配信・回答させたうえで、前回の回答を示して今回伸長した項目や振るわなかった項目を確認、次回ループリックまでの伸長目標などを「リフレクションシート」に記入させてロイロノートを通じて提出させ、次回の結果と比較させることとした。	A
特進小委員会（継続）	毎週水曜日の1時間目に特進小委員会を入れて、学年にかかわらず特進クラスの諸行事の検討、各学年生徒の学習や生活状況の報告、特に3年生の進路希望や模擬試験結果の分析などを行ってきた。また、各学年から状況の報告と共に下学年への申し送りを行い、孤立しがちな特進クラスを縦の関係で支えて協力していく態勢を構築した。その結果、昨年度は実施できなかった特進特別講習（勉強合宿）を、2学年生徒を対象に3泊4日で、学年を超えた先生方の協力のもと実施することができた。	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

<p>（オンライン授業）</p> <p>時差通学・短縮授業と分散登校の際には、登校しない日については Zoom を用いたオンライン授業で通常の時間割どおりに授業を進めた。生徒の視聴状況はほぼ100%で、自宅から制服を着て授業に参加、体育の授業は体育着に着替えて自宅で運動をするなど、良好な状況であった。3年生の基礎学力到達度テスト前は対面授業とそのオンライン配信によって登校・在宅どちらでも同じ授業が受けられるようにして、生徒の通学による不安や、在宅による不安を解消するよう努めた。クラスによってばらつきはあるものの、全体的にはおおよそ2割の生徒が通学して対面授業を受け、8割の生徒が在宅にてオンライン授業を受けていた。このことによる学力の低下は起こらず、むしろ基礎学力到達度テストにおいて好成績を得る生徒が増えることとなった。</p> <p>（感染症対策）</p> <p>都内感染者増の期間には、生徒の時差通学、分散登校のほか、教員に対しても出勤時間を通常より1時間遅らせてラッシュ時間を避けるようにしたこと、休日出勤は予め許可を受けることなど、なるべく人と接しないような対策を講じた。また生徒・教職員ともに iPad に導入してある Classi を用いて、毎日朝晩の体温と体調について「体調管理アンケート」へ回答させて、生徒に発熱や倦怠感などの症状がある場合には出席停止扱いとして登校させないようにした。本校関係者以外は入校を規制し、取引のある業者などが来校する際には3日前からの検温、体調管理シートの記入をもって入校を許可した。ハード面では顔認証検温機を生徒昇降口に設置して毎日の登校の際に発熱者がいないか確認、生徒一人ひとりにプラスチックのパーテーションと机上マットを配布し、授業や昼食の際に使用させた。昇降口、トイレ、教室に手指消毒用液を設置、放課後には教員が教室や特別教室、体育館などの施設、トイレの消毒を行った。</p> <p>（学校行事）</p> <p>学校行事は延期または形を変えて実施できるよう工夫した。</p> <p>（部活動）</p>
--

都内感染者数の状況に応じて活動の禁止及び、活動時間の制限や活動日数の制限、練習試合、合同練習など校外での活動の制限をかけてきた。夏休み中の合宿は中止としたが、感染者数が減じてきた冬休み中は可として、バスケットボール部、女子バレーボール部、合唱部、スキー部、ライフル射撃部、吹奏楽部で合宿を行った。

(校務分掌ごとの対策)

<教務部>

コロナ禍の対応として、2学期にハイブリッド型（オンラインか対面を選択）授業を実施した。登校して対面で授業を受けたい生徒と感染不安で登校できない生徒のニーズに応えることができた。生徒・教員にそれぞれアンケートを取り、問題点が浮き彫りとなった。この1年間で本校のICTはかなり進んだが、ブレイクアウト・ルームを利用した双方向の授業の実現には程遠い。研修会や事例研究会の実施も少なく推進できていない。

<生活指導部>

- ・第1会議室から各教室にZoom配信をする形式でのネットリテラシー講座
- ・教室で机の下に身を隠し、廊下に整列するという形式での避難訓練実施
- ・時差登校や分散登校、一斉下校の際の交通指導

<生徒会指導部>

- ・櫻高祭（文化祭）、体育大会、芸術鑑賞会など学校行事を形態や日程を変更して全て実施
- ・部活動体験会の中止に伴い、中学生への各部の活動をHPより動画等で紹介
- ・夏合宿や遠征の中止、冬合宿の実施、部活動時間の制限

<進路指導部>

- ・各種模擬試験の家庭での自主的な実施
- ・進路説明会を動画配信で実施
- ・各学部から講師を招いて出張講義の一部オンラインでの実施
- ・法学部、経済学部、文理学部の高大連携授業の受講（オンライン）
- ・文理学部高大連携授業後のプレゼンテーションへの参加

<保健衛生部>

- ・校内の次亜塩素酸ナトリウム溶液・アルコール・マイペットスプレーを使用して消毒の徹底
- ・classiアンケートによる生徒及び教職員の健康管理
- ・体調不良生徒の報告や生徒及び生徒家族のPCR検査報告の流れを周知
- ・新型コロナウイルス感染疑いに係る出席停止生徒報告書を改訂し運用
- ・体調不良の生徒に対し出席停止の日数と症状の経過について学校と家庭で相互に連絡
- ・生徒登校時に顔認証AI体温測定機による体温チェック
- ・飛沫防止用パーテーションと机上シートの導入
- ・教室のこまめな換気
- ・昼休みの先生方の教室巡回と放送による呼び掛け

<図書部>

- ・入退室時の手指消毒
- ・貸出カウンターにパーテーションを設置
- ・人が触れた本は全て消毒してから配架
- ・換気の徹底
- ・閲覧スペースの利用を制限

<広報部>

- ・7月、8月、9月にオンライン学校説明会を順次公開
- ・夏休み中、人数を制限してキャンパスツアーを実施
- ・9月、10月、11月に事前予約制によって人数を制限しての入試学校説明会を実施

- ・11月、12月の日曜日に人数を制限して学校見学会を実施
- ・オンライン入試相談会の実施

令和4年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」, 「高大接続改革」への 対応	観点別学習状況評価の運用 令和4年度から導入される観点別学習状況評価を本校に合う形で運用していく。3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）の割合や評価方法等が適正であるか年間を通して検証していく。場合によっては、次年度若干の修正を加える。	2月・3月 シラバス作成 4月 新入生ガイダンス や保護者会で説明 5月～12月 検証期間 1月～3月 調整
グローバルへの更なる 対応	<ul style="list-style-type: none"> ・English Challenge Program の実施 新型コロナウイルス感染症が収束の見込みが立たない上、海外渡航や海外からの受け入れが実現できないため、国内代替プログラムの充実を図る。英国語学研修、NZ留学等の代替プログラムで、年2回の実施を目指す。4月に国際交流委員会から年間スケジュールを提示する。募集の説明会では、前年度に参加した生徒の体験談を取り入れる。 ・U.S. Dual Diploma Program の充実 参加する上でよりスムーズに進めることができるよう英検2級の取得生徒のみを対象とする。開始時期を5月からではなく、1月からとする。そうすることで、確実な英語力で対応することができる。募集説明会では、現在参加している生徒の体験談を取り入れてよりリアルな声を希望者に届ける。 	4月 年間スケジュールの提示 6月 各種説明会 8月 English Challenge Program 実施 1月 U.S. Dual Diploma Program 開始 3月 English Challenge Program 実施
年間行事予定の見直し	前年度に囚われることなく、生徒の満足度向上と授業日数の確保のバランスを図りながら行事を検討する。特に、生徒会指導部、進路指導部と連携を図り、コロナ禍に対応した内容や代替を予め想定して行事予定を前年度から検討する。	年3回の学校生活アンケートに行事予定の欄を設け生徒の意見のニーズを検証する。夏季休業中に案を提示し、9月から分掌間で意見交換、調整を行う。

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に改定した本校のいじめ防止対策基本方針について、全教員に改めて周知する。 ・日本大学「いじめ防止、早期発見のためのリーフレット」の活用方法をより具体的にHR計画に反映し、学年集会やLHRを通じて全校生徒に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の教職員会議において、改めて全体に周知する。 ・教務部、各学年と連携し、4月に作成するLHR計画の中に明記し、実践していく。新入生は入学後に行われる校外教育のガイダンスで周知する。
校則の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に教員を対象に実施した「校則に関する 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初より関係部署と連携

	<p>意識調査」を受け、校則の在り方や運用について検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文理学部の末富先生の御助言をいただきながら、関係部署と検討を進めいく。 	<p>を取りながら検討を進め、年度内にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に教職員会議等で報告、審議をする。
<p>社会生活上のルールやマナーに対する意識の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度も教員による交通マナー等の指導を重点的に実践した結果、苦情が減少したことを受け、令和4年度も引き続き指導を実施し、生徒の規範意識の向上につなげる。 ・コロナ渦において生徒は自宅で過ごす時間が増加しているため、SNSに関する問題の発生が懸念される。専門家による講演や具体的な指導を通じて未然防止につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に指導計画を策定するとともに、状況を確認し、臨機応変に対応できる体制を整える。 ・新入生及び2年生に対するネットリテラシー講座及び成城警察署の講話を1学期中に実施する。

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
<p>芸術鑑賞会の充実</p>	<p>次年度以降は1・2年生と3年生の芸術鑑賞会を分けて実施しすることにしたため、各学年の実施内容について検討を行う。</p>	<p>1学期初めに学年ごとの鑑賞内容を中期的に策定する。</p> <p>2学期に次年度の具体的内容を決定する。</p>
<p>生徒会行事の実施時期、内容等の検討</p>	<p>生徒会行事の実施時期、内容等の検討を行う。</p> <p>①次年度体育大会を外部施設の利用も含めて実施時期・内容の検討を行う。</p> <p>②その他の行事についても、再度実施時期、内容等の検討を行う。</p>	<p>1学期中に外部施設の状況を調査し、その利用の可否を判断する。それをもとに次年度以降の体育大会の実施時期・内容を検討する。</p>

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
<p>日本大学への進学者数増加に向けた取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学部訪問を再開する。新型コロナウイルスの状況を見ながら、各学部が受け入れやすい日程に開催する。 ・7月面談時に実施する進学相談会では相談件数の増加を図る。具体的には、クラス担任からの声掛け、当日の掲示案内の工夫などを行う。 	<p>7月11～13日の間で実施</p> <p>7月19, 20日</p>
<p>キャリア教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出張講義を1年, 2年を対象に学年別で実施する。今年度の反省を生かし、運営方法を見直し、さらに効果を上げられる行事とする。 ・適性診断（GAKUTAN）の事後指導の充実 ・小論文テストの事前指導の充実 	<p>1年：9月30日</p> <p>2年：7月11～13日の間</p> <p>9月30日</p> <p>9月3日, 10月29日,</p> <p>1月10日</p>
<p>高大連携教育</p>	<p>従来行ってきた高大連携教育（科目等履修生、文理学部体験授業）を実施し、受講生徒数の増加を図る。</p>	<p>科目等履修生：2月生徒に案内</p> <p>文理学部体験授業：8～9月の開催を検討中（文理学部にて）</p>

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
保健衛生 ①健康診断の実施 ②感染症予防	①健康診断の実施に向けての準備 ②熱中症予防・新型コロナウイルス感染症予防と消毒作業の徹底をしていく。	①1月 業者打合せ開始 新年度始業式に健康調査票などの回収と確認 4月25日(火)健康診断日 ②熱中症予防の注意喚起(8月) 感染症予防の注意喚起と手続きの確認(9月)
生徒相談 特別支援体制の強化	①特別支援に関する研修会参加の機会を増やす。各部署との連携を図り、生徒の情報共有と個別対応を周知徹底する。 ②1年生対象生徒相談資料調査を行い、問題行動を早期に見出し、深刻化しない段階で解決を図る。	①各学年よりヒアリングとミーティングを通じて、支援や配慮の必要な生徒についての情報を得る。 ミーティング開催予定時期： 7月・12月・3月 ②6月：生徒相談資料調査 7月：臨床心理士によるデータ分析と解説

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
図書室運営内容の積極的な公開	新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、生徒が自由に図書室を活用できるようになったら、図書室のハード面の拡充は十分進んだので、今度は積極的に図書室利用の活性化を図る動きを進めていく。これまでも新刊案内、図書だより、開室カレンダー等を、classiを利用して伝えてきたが、HPにもリンクを張り、展示企画の内容や図書委員の活動内容を伝え、ライブファインダーの活用もより一層促していく。	・広報部との連携、協力依頼 ・図書委員の活動の活性化を促すために、定期的に委員会を開催。選書、展示、図書だよりの作成等を行う。
蔵書の精選と拡充	利用頻度が高く、また情報が陳腐化しやすい学習参考書の入れ替えを積極的に進める。 限りある空間を有効に活用するために、適切に除籍を進める。 教員、図書委員及び一般生徒からのリクエストを積極的に受け入れる。	学習参考書に関しては、赤本はこれまでどおり進路指導部と協力して選書を薦め、教科毎の参考書や問題集はお薦めの書籍の提示を各教科に依頼する。 除籍は司書と綿密に打ち合わせて実施する。 図書委員からの選書リクエストは定例会時に行う。一般生徒からのリクエストは随時受け付ける。

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学校案内・ホームページのマイナーチェンジ	学校案内・ホームページについて、令和元年度に一新してから3年が経過した。学校案内の内容やホームページとの住み分けなど、3年間使用して見えてきた課題に努める。特に学校案内は、情報過多な傾向にあるため、情報の取捨選択を行い、いかにホームページへの誘導に活用できるかという観点で校正を進めていく。なお、改訂の際には、3年間で作り上げてきた本校のブランディングは崩さず、かつ新しさ・他校にはない魅力を盛り込めるよう検討していく。	学校案内については、令和4年5月に校了、6月に発行を予定している。 ホームページについては、7月までに広報部で変更する点を検討し、随時更新を行っていく予定である。
卒業生の活躍を広報する	これまで、在校生や各種行事の様子をアピールしていくことを中心としていたが、次年度は卒業生の活躍にも注目した広報活動を行っていきたい。 実施の際は、第3学年や進路指導部と連携し、人選・方法等を検討していく。	進路説明会等に参加してくれる卒業生にオファーを掛ける。 定期的に先生方に話を伺い、候補となる卒業生の検討を行う。

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	令和3年度から継続して、東京都の新型コロナウイルス感染者増減の状況に応じて、東京都の通知を参考として、授業形態や部活動、学校行事などについて適切な学校運営を施す。	政府や地方自治体から発出される緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置、東京都からの通知に従い臨機応変に対応する。
施設・設備の老朽化対策	主として安全衛生委員会の委員によって定期的に校内施設・設備の巡視を行い、老朽化あるいは生徒の安全上問題あるものについて修繕、改修を行う。	月に1回の頻度で校内巡視を行う。

中長期的目標の取組結果

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「自主創造」を基盤とした生徒の人格形成	SAKURA ルーブリックを用いて、生徒自身に通常のテストでは測ることのできない思考力・判断力・表現力や主体性・協働性について自己評価させ、前回の評価との比較から次回への目標を立てて学校教育に臨む、PDCAサイクルを構築することができた。この自己評価→目標設定→実践→自己評価のサイクルを3年間続けることによって、日本大学の教育理念「自主創造」の三つの構成要素、「自ら学び」、「自ら考え」、「自ら道を切り開く」生徒の育成を目指す端緒を得ることができた。	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
高大連携教育の継続的推進	法学部、経済学部、文理学部の高大接続授業については、オンライン授業という形態ではあったが継続して実施でき、本校生徒も参加した。本校の授業終了後に	B

	<p>各自の家庭でのオンライン授業に間に合わない場合は、校内の特別教室等で受講できるよう工夫した。</p> <p>昨年度は実施できなかった出張講義については、2年生理系クラスを対象とした夏休み中の理系学部（文理，理工，生物資源科学部）の講義や実験，1・2年生全員を対象とした10月の23学問系統の講義を校内で実施した。</p> <p>文理学部との施設利用や学生による学習補助などは，新型コロナウイルス感染症対策として構内に入ることができなかったため実施できなかった。</p>	
--	---	--

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「自主創造」を基盤とした生徒の人格形成（継続）	SAKURA ループリックを用いて PDCA サイクルを構築する	半年ごとにループリック回答とリフレクションシートを作成

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
高大連携教育の継続的推進（継続）	日本大学のスケールメリットを生かして，各学部の体験時授業，学部説明会，本校生徒に対する講演会，特に文理学部との高大連携教育を推進する。	年間を通じて学部訪問，出張講義，体験授業への参加，科目履修などを通じて，生徒の進路観を育成する。